

島根県山岳連盟

これまでのあゆみ

島根県山岳連盟は、「登山を通して、加盟会員相互の親睦、正しい技術の取得、豊かな人間形成を図る」ことを目的として昭和25年9月、県内の登山愛好家が参集して設立された。

主な活動は、山を楽しみながら歩く登山活動と、競技性を持った人工壁を登るスポーツクライミングであり、はじめに山岳競技の変遷について述べる。

設立当時の競技は、重いリュックを背負い頂上を目指して登り、途中の宿泊はすべてテントを前提とする競技で、タイムを競うのではなく、その行動を審査する競技であった。その後、山道を走る縦走、地図に示されたコースを辿りポイントを地図に落とす踏査、険しい岩壁などを登る登攀の3種目で競い合った。

島根県の山岳競技は、昭和57年開催のくにびき国体において、男女総合優勝と女子総合優勝を達成した。平成14年の第57回高知大会から踏査種目が廃止され、平成20年の第63回大分大会からは縦走種目も廃止となり、登攀種目から発展したスポーツクライミングのみでの競技となった。

現在の国民スポーツ大会・スポーツクライミング競技では、人工壁を登って到達した高さを競うリードと、成功した数を競うボルダアの2種目で競技が行われ、中国ブロック大会では、競技施設が整い指導陣が豊富という練習環境に恵まれた他県が先行している状況にある。

一方、登山では、県民登山大会や地図読み研修会等の自主事業の開催、全日本登山大会への参加、加盟団体による自主遠征などを行っている。なお、平成28年11月には第55回全日本登山大会島根大会を全国から169人の参加者を迎え、三瓶山周辺を主会場に開催した。



第55回全日本登山大会島根大会（三瓶山）

現在の状況

- ・上部団体：現在、当連盟は「日本山岳・スポーツクライミング協会」に加盟し、競技としての活動や、登山に関する各種研修会などに参画している。
- ・加盟団体の減少：最盛期には17団体が加盟していたが、会員の高齢化等により加盟団体が減少している。そのような中、島根県で開催される2030年島根かみあり国スポ・スポーツクライミング競技の会場が津和野町となったことから、町にスポーツクライミング連盟が設立され、加盟団体が8団体となった。
- ・競技施設の拡充：スポーツクライミング競技は専用の施設が必要であり、ボルダア壁は民間のクライミングジムを、リード壁は主に連盟が保有する仮設の1基を利用して選手の育成・強化を図ってきたが、令和5年度、島根県により仮設のボルダア壁が設置されたので、これらを有効活用し国民スポーツ大会での選手の活躍に向けて取り組んでいく。

これから

スポーツクライミング競技は、オリンピック種目に採用されたことから全国的に注目されており、特に選手の低年齢化が進んでいる。

今後は、将来活躍が期待されるジュニア層の育成に力を入れるとともに、競技愛好者の底辺拡充にも取り組んでいく必要がある。

また、登山活動においては、近年、高齢者層の登山が増えてきていることから、滑落や転倒事故、また道迷いなどによる軽微な遭難事例が多く発生している。そのため、連盟として未組織登山者への技術研修など安全登山の啓発活動を進める必要がある。



第74回国体中国ブロック大会島根大会リード競技